

学習者にとって「むずかしい語」とは？

中本 恭平

「むずかしい単語を覚えるよりやさしい単語をたくさん覚えなさい」とか、「入試の長文問題にはできるかぎりむずかしい語を使うな」とか、「英英辞典は見出し語の意味を説明するためにむずかしい語をたくさん使っているのでイヤだ」といった助言、警告、嘆きetc.は、教育現場にいる者ならだれしも耳にし、口にしたことだろう。ところで、「むずかしい語」とはいったいどういう語なのか。「やさしい語以外の語」と答えるなら、「やさしい語とはどういう語か？」と質問を畳みかけることになる。本稿では、(日本人)英語学習者にとって「むずかしい語」の正体を暴く、というのは少々大げさだが、「むずかしい語とは何か？」という素朴な疑問に関して、語の形式、意味、頻度、および日英比較という観点から眺めてみることにする。

1 語の〈形式〉から見た「むずかしい語」

仮説(1): 綴りの長い(多音節の)語はむずかしい

同じ「尋ねる」でも、askよりquestionのほうがむずかしく、questionよりinterrogateのほうがむずかしく感じられる。一般に、フランス語やラテン語がら入ってきた語はアングロサクソン系の語より「いかめしい」印象を与える。単語テストに備えてであろうか、綴りを書いて単語を覚えようとする学習者にとっては、綴りの長い語は「むずかしい」。画数の多い漢字は画数の少ない漢字より覚えにくいというのとどこか似ている。

仮説(2): 綴りのややこしい語はむずかしい

固有名詞ではあるが、IllinoisやMississippiといった語はネイティブスピーカー(の子供)にとってもむずかしい語かもしれない。下準備(と日ごろの勉強)が不十分で、黒板に思わず*embarrassmentと綴ってしまい、それこそきまり悪い思いをした先生も

いることだろう(失礼!それは私です!)。ghotiはfishなりーという有名なジョークに見られるように、英語の綴りと音との関係はしばしば学習者(およびネイティブスピーカー)泣かせである。綴りと発音をセットにして覚える場合、黙字を含む語はしばしば「むずかしい」。psychologyを「プシコロジー」と唱えながら覚えたり、実際それが正しい発音だと誤解している学習者もいる。

仮説(3): 綴りの似た語どうしはむずかしい

子供のころ、水と氷、門と問と問の違いに悩んだように、desert - dessert, principal - principleの違いをなかなか克服できないという学習者は案外多いのではなかろうか。「(食後の)デザート」は日本語に入っているので覚えやすいやさしい語であるはずだが、似通った語が邪魔をする。

仮説(4): 音の似た語どうしはむずかしい

heroin(ヘロイン) - heroine(ヒロイン)あるいはcouncil - counselのように綴りが似ている語の場合、ともすれば綴りの違いを意識するあまり、これらが互いにhomophoneの関係にあるという事実をつい見失いがちである。そういう意味においては、音の似た語どうしは音声面で「むずかしい」? s - th や l - r 間の区別をしない日本人(の初学者)は、mouse - mouth, lice - riceすら混同するかもしれない。そこに意味の類似性が加わるといっそう混乱する。lend - rentをごちゃまぜにして、*lent-a-carなどと綴る学習者もいる。

2 語の〈意味〉から見た「むずかしい語」

仮説(5): 多義語はむずかしい

多義語のそれぞれの意味をすべて暗記しなければならないのであれば、暗記に負担がかかるので「む

ずかしい」。springを「春、泉、バネ、跳ねる」と覚えるには、winter＝「冬」と覚えるより4倍の労力が必要となる(ように感じられる)。

仮説(6)：俗語や専門語など特殊な意味をもつ語はむずかしい

多義語の一部の語義が俗語や専門語である場合、元の意味との関連性につかみにくく「むずかしい」。手元の辞書によると、springには「脱獄させる」「(地雷を)爆発させる」などといった意味があり、mouseは「はにかみ屋」という意味で使われることもあるという。後者は日本語の「ネズミ」からはすぐに出てこないイメージであるだけにその分いっそう「むずかしい」。

多義語でなくとも、専門的な意味をもつ語は通例むずかしく感じられる。synopsis「《生》対合」という辞書の記述からは、生物学用語であることはわかって、はたして「対合」とは何なのか、シロウトには、にわかにわかりがたい。

仮説(7)：比喩的な意味をもつ語はむずかしい

(6)で述べたように、語の意味が派生して比喩的な意味をもつに至った場合、元の意味との関連性が感じられなければそれだけむずかしくなる。

これとは別に、学習者にとっておなじみの語がイディオムの一部として現れた場合には、もはや「やさしい語」ではなくなる。handやfootを知らない学習者はさすがに少数であろうが、change handsやget cold feetになると、辞書が恋しくなる。

仮説(8)：抽象的な意味をもつ語はむずかしい

penやdeskのように具体的な物を指し示す語に対して、抽象概念を表す語は意味を理解するのがしばしば「むずかしい」。たとえば手元の英和辞典でwitを引くと、第1義として「機知、ウイット、とんち、機転」という4つの訳語と、a speech full of wit and humorという用例が載っている。具体的にどのような演説をしたのでしょうか、と学習者に尋ねてみよう。はたしてどんな答えが返ってくるだろうか。さらに、humorとの違いは何か、と質問を追加すれば、よい勉強になることだろう。

3 語の〈頻度〉から見た「むずかしい語」

仮説(9)：出現頻度の低い語はむずかしい

出現頻度の低い語、すなわち使用頻度の低い語に出くわす可能性は相対的に低い。目にし耳にする度合いが低い語は記憶に残りにくいので、学習者にとっては疎遠な語、むずかしい語となる。

共時的には次の2通りが考えられる。

① あらゆるcontextにおいて出現頻度が低い

② 相対的には出現頻度が低い、一部の(特殊な)contextにおいては出現頻度が高い

①の例としては、古語や廃語などが考えられる。十戒のThou shalt not steal.におけるthouやshaltは多くの日本人英語学習者にとっては「むずかしい」はずである。

②については、(6)で述べた俗語や専門語が好例であろう。もっとも、このような語が常に学習者にとって「むずかしい語」であるとは限らない。昆虫好きの学習者が、昆虫名を英語で覚えているということもありえるし、コンピュータ用語などは教師より生徒・学生のほうがよく知っていたりする。さらに、思春期の生徒にとっては、性に関する俗語や解剖学用語は容易に記憶に残るかもしれない。

そこで、頻度を別の角度から見ることがある。

仮説(10)：学習者の目・耳に触れにくい語はむずかしい

大多数の学習者にとって、英語に触れる数少ない(あるいは唯一の?)場は英語の授業であり、目にし耳にする英語の出所は主として教科書や参考書の類であろう。したがって、教科書に出てこない語は学習者にとっては疎遠な語、むずかしい語となる。「少子化」「全入」などという言葉が飛び交う時代になったとはいえ、依然として各種の受験が英語学習の強力な動機づけになっているとすれば、仮説(10)は次のように書き換えることができる。

仮説(10)：試験に出ない語はむずかしい

全国の大学・高校の入試問題で用いられた英単語の頻度リストのようなものは、残念ながら筆者の手元にはないので確かなことは言えないが、「試験に出る語＝ネイティブスピーカーにとって日常の語」という等式は必ずしも成立しないであろう。調理器具の「おたま」(ladle)や「おくび」(belch)などは生活用語、日常語であろうが、入試問題で用いるには

ためられる語である。

逆に、教科書や試験に出る語がすべて「やさしい語」であるわけでもない。既に(1)~(9)で引用した語の多くは「受験英語」であるはずだ。

4 どういう点で「むずかしい」のか

教科書や試験に出ない語はむずかしい、しかし教科書や試験に出る語もむずかしいとなると、いったいどういう語が本当にむずかしくて、どういう語がやさしいのか？

一口に「むずかしい」と言っても、どういう点でむずかしいのかを考えなければならない。単語の書き取りテストに備えている学習者にとっては、綴りが問題となろう。単語集を必死で暗記している学習者は、綴りもさることながら、意味(訳語)の数や抽象度・不透明度(イディオム度)にも左右されることだろう。発音という観点からすると、She sells seashells on the seashore.でおなじみのseashellやseashoreなどはむずかしいほうだろう。

もちろん、ある語が複数の点でむずかしいということもある。たとえば、pseudocoelomate(擬体腔のある動物)という語は、綴りも発音も意味もすべてむずかしく感じられる。

5 <日英比較> から見た「むずかしい語」

仮説(11): 日英差が大きい語はむずかしい

おおざっぱな仮説であるが、日本語と英語の違いが大きければ大きいほど「むずかしい」、具体的には次のような場合が考えられる。

① 語の指示物が日本人にとってなじみのない(薄い)場合—例: chair, benchよりhassockのほうがなじみが薄く、それゆえ「むずかしい」。

② 意味の区切り方が日本語と(大きく)異なる場合—例: ashamed - embarrassed - shyと「恥ずかしい」、country - nation - stateと「国」など。前者は抽象概念なのでさらにむずかしい(→(8))。

③ 日本語の音と異なる音を含む場合→(4)参照。

④ 日英でイメージの差がある場合→(6)参照。

仮説(12): 日英差が一見ないように思える語はむずかしい

false friends(類音異義語)はしばしば大きな誤解を誘発するのでやっかいだ。claimと「クレーム(を

つける)」、challengeと「チャレンジ」など枚挙にいとまがない。カタカナ語に対する英単語は一見とてもやさしい語のように思われがちだが、落とし穴があることに学習者はなかなか気づかない。carと「カー」、juiceと「ジュース」などは意味の区切り方も異なるのでいっそうむずかしい(→(11))。

6 「むずかしい語」を「やさしい語」に

このように書いてくると、なんだかどの語もすべて「むずかしい語」のように思えてくる。これでは英語学習は苦痛きわまりない。どうすればよいか？ 筆者なりの考えをいくつか示しておこう。

① 「やさしい語—むずかしい語」と「覚えるべき語—覚える必要のない語」を区別する。ladleのように綴り・音・意味のいずれにおいても比較的やさしい語であっても、出現頻度が相対的に低く学習者にとっては第一に覚えるべき語とはならないものもあれば、embarrassedやprincipleのように覚えておくことを奨励したくなるむずかしい語もある。

② 多義語の意味をバラバラに覚えるのではなく、意味のつながりを意識しながら理解するよう心がければ、一見むずかしい語もやさしい語となりうる。springは「跳ねる」から出発し、跳ねるように水が湧き出れば「泉」、草木が芽生えれば「春」になり、飛び跳ねるものとして「バネ」があるのだと理解すれば、おもしろい記憶にも残りやすい。

③ 専門用語はいったん覚えてしまえばやさしい語となる。diabetes, diarrheaといったいかにもむずかしい語の多くは多義語ではないので、「英語→日本語の訳語」式の暗記が可能である。もっとも暗記する必要があるかどうかは別問題である。

④ 綴りの「むずかしさ」にとらわれすぎないようにする。音声英語の場合には綴りは関係ないし、最近ではスペルチェッカーも充実してきているし、それに忘れれば辞書で確認すればよいのだ。国語辞典を見ずに「薔薇」や「憂鬱」をスラスラ書ける人はいったいどのくらいいるのだろうか？

⑤ 逆に、見かけ上やさしい語をあなどらないことが大切だ。極端な例として、冠詞のaとtheが挙げられよう。綴り上も音声上も単純な高頻度語であるこの2語を満足に使い分けられる日本人英語学習者は、筆者の経験で判断するかぎり実に少数であると言わずばなるまい。この種の「覆面難解語」にはput,

setなどの基本動詞も含まれよう。

そこで、英語の授業の「息抜き」に、毎回5分くらい英和辞典で基本語を引くというのも一案だ。長い項目すべてに目を通すのは無理なので、「setには〈定まった〉という意味合いがある→髪をsetする」, 「動詞challengeの第1義の最初の訳語1つと最初の

例文を書き写しなさい」程度がよい。

いずれにせよ、むずかしい語はやさしいかもしれない、やさしい語はむずかしいかもしれない、という意識を学習者に喚起したいところだ。

(共立女子大学文芸学部助教授)

原稿募集について

CHART NETWORKは、各方面で英語教育にたずさわる方々の、英語教育に関する実践や研究などの発表を大きな柱として編集されます。そこで、広く原稿を募集いたします。

1. 原稿は未発表のものに限ります。英語および英語教育に関するオリジナルのものであれば、内容は問いません。
2. 執筆要領
 - ① 1ページは左右23字、天地43行の2段とし、2～4ページにおさめてください(句読点は1字とする)。英文の場合は1ページ550 wordsを目安としてください。
 - ② 特に強調したい箇所(太字にしたい箇所)には、赤色で下線を引いてください。
 - ③ 冒頭には必ずタイトルをお付けください。このタイトルは、10行×2段とってください。
 - ④ ワープロで原稿を作成された方は、ご使用の機種を明記のうえ、なるべくフロッピーディスクも原稿と一緒ににお送り下さい(フロッピーディスクはお返しいたします)。
3. ① 掲載量には限りがございますので、編集部で原稿を選択させていただくことをご了承ください。また、内容の趣旨が変更されない範囲で、原稿の一部を修正させていただく場合があります。
 - ② 掲載させていただきました分につきましては、弊社規定の原稿料をお支払いいたします。
4. 原稿の送り先

☎ 604-0867 京都市中京区烏丸丸太町西入ル 数研出版株式会社 関西本社編集部 CHART NETWORK 係